

第 5 8 9 回 放送番組審議会

1. 日 時 2022 年 10 月 18 日（火） 午後 1 時 30 分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6 階大会議室

3. 委員総数 9 名

出席委員 9 名

委員 長	加藤 千晶
副委員 長	前田 千香子
委員	緑川 智恵子
委員	蛸崎 奈津子
委員	久保 公人
委員	林 伸彦
委員	岩城 択
委員	葛尾 敏哉
委員	菊地 文彦

欠席委員 なし

社側出席者

榎野 信治	（代表取締役社長）
福士千恵子	（取締役副社長 社長補佐・報道制作担当）
小形 恵一	（報道制作局長）
桑島 広実	（報道制作局次長兼制作部長）
金子真志保	（報道制作局制作部）

事務局

藤村 恵一 （編成局長兼編成部長）

4. 議 題

1. 9月18日(日)13:30~14:25

「ダイドーグループ日本の祭り 祈りの舟 晩夏の空を染めて～盛岡舟っこ流し～」

2. 「テレビ岩手 放送番組編集基準」の変更について

3. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・「テレビ岩手 放送番組編集基準」の変更に関するご説明資料(別紙)
- ・前回の議事録の訂正表
- ・視聴者からのご意見

6. 意 見

【委員側意見】

- 300年続く魂送りに込める人々の想いが丁寧に取上げられていて、終始心穏やかに視聴することができた。
- 歴史の説明や、今回やると決めた団体と見送りを決めた団体、それぞれに時間を割いて説明や取材をしていたのが印象に残った
- 雨が降ったり、火を使ったりする中で、山や川の中、人の表情等、カメラワークで非常に情緒を感じることができた。
- 困難で継続できなかった方が、なぜ諦めざるを得なかったのか、苦渋の声を聞きたかった。
- コロナ禍2年経って継続中だが、その2年間があぶり出した今後の地域の作り方の課題を提示したような内容だった。
- 季節の移り変わりも爽やかに感じたし、当日は雨だったがそれが吹き飛ばすような爽やかな印象で番組を見ることができた。
- 「お袋のためにも作ったようなもの」というインタビューの後に、「母を送るために作っている」というナレーションがあり違和感を覚えた。
- 継続するために他を選択するのか、また何か打つ手はあるかなど工夫してやってみることの大事さが伝わってきた。
- 叙事的な前半の部分から、叙情的な部分、そして後半は燃え盛る舟の映像を少し詩的な表現がされていて非常に構成がしっかりしていた

【局側意見】

- この行事は当初は2020年に番組化をする予定だったが、新型コロナの感染拡大のため2年連続で開催が中止となり、今回ようやく制作・放送できた。
- 「静」のお祭りで山場がないような感じの祭りなので、構成が非常に難しいと感じた。
- 今回、13の団体のうち8つしか出られなかった。諦めざるを得なかった団体が5つあった。
- 祭りや地域のことを取材する上で、たくさん女性達も関わっているので、今後こういう機会があれば是非紹介したい。

7. 審議機関の答申または意見の概要公表の方法及び年月日

- ① 自社放送 10月25日（火）11：45-11：52「あなたと歩むテレビ岩手」
- ② テレビ岩手本社での据え置き
- ③ 読売新聞への掲載
- ④ 自社 HP での掲載 <https://www.tvi.jp/tviweb/deliberation>